



■お手玉を操る



■一つひとつが手作りのおもちゃで遊ぶ



■お魚の後ろはマジックテープがついている



■海の中にはたくさんの恵みが



■小名浜白百合幼稚園



■清風幼稚園



■ボランティア受付所. 今も多くの千羽鶴

埼玉県川口市の社会福祉法人めだかすとりいむが、東北支援として「手作りおもちゃを東北の子どもたちへ…」という活動に、全国の日本のお手玉の会のみなさんが作ってくださってお手玉を提供しました。

これは、日本のお手玉の会の本部がある新居浜市で、日ごろお世話になっている、おもちゃ図書館きしゃポッポの松山明子代表(日本のお手玉の会新居浜支部世話人)の紹介で、お手玉を託したものです。

めだかすとりいむでは、東北支援のため平成25年10月25日(金)と26日(土)に、いわき・南三陸に出かけました。

1日目は、福島県いわき市の聖テモテ幼稚園、小名浜白百合幼稚園、清風幼稚園を、2日目は、宮城県南三陸町の南三陸ボランティアセンター、南三陸さんさん商店街、入谷公民館「いそひよ」おもちゃ図書館を訪ねられました。

訪問された4人から被災地のお子さんたちが、手作りおもちゃやお手玉に触れ、笑顔で遊ぶたくさんの写真とレポートが、日本のお手玉の会に届きました。

レポートには、次のような言葉が綴られていました。「お手玉を、無事に届けてきました。どの場所でも、子どもたちはお手玉で遊んで、笑顔になりました。子どもたちの心が豊かになるお手玉、ほんとうにありがとうございました。」

「外で遊ぶことのできない子どもたちは、手作りのおもちゃや、お手玉を持って、満面の笑顔を見せてくれました。この笑顔をおもちゃやお手玉を作ってくださった方々に、しっかり伝えなければと、心から思いました。」

「実際に現地を訪れ、直接お話を伺うということが、メディアから受け取る情報にはない、今の現状を知る一番正確な情報だと痛感しました。」



## 川口市の福祉法人に託したお手玉が 東北の被災地に届き笑顔に変えた